

科目名称 (Course Title)				担当教員(Instructor)	
データベース論				神谷 達夫	
開講学期 (Semester)	単位数 (Credits)	履修年次 (Requirement)	授業形態 (Class Type)	受講定員の有無 (Maximum Enrollment)	授業公開 (Workshop Class)
前学期	2 単位	2 年次	講義	無	不可
授業の概要 (Course Description)					
<p>データベース(database) は、特定の目的や意味を持ったデータを集めて管理し、容易に検索・抽出などの再利用をできるようにしたデータの集合体である。狭義にはコンピュータ上で実現されたシステムを指す。本講義では、データベースの歴史、種別、仕組みについて学習するとともに、実社会において活用されているデータベースサービスの具体的な事例を取り上げ、データベースの応用に関する知識を学ぶ。また、実際に簡単なデータベースの設計に取り組み、データベースの正規化などのデータベース構築に際して必要となる知識を学ぶ。なお、授業の進捗に合わせ、講義内容を変更する可能性がある。</p>					
授業の到達目標 (Course Objectives)					
<p>本講義は、データベースを活用するための基礎知識と業務への応用について理解することを目的としている。応用事例の検討によって、実社会でどのように活用されているかを理解することをねらいとしている。</p>					
授業計画 (Course Schedule)					
第 1 回	ガイダンス	授業の全体像、スケジュール、進め方の説明			
第 2 回	データベースの概要	データベースの意味、歴史必要性			
第 3 回	〃	データベース管理システムとその種類			
第 4 回	〃	最近のデータベースの動向			
第 5 回	データベースの設計	データ独立性と3層スキーマモデル			
第 6 回	〃	データモデル			
第 7 回	関係データベース	関係モデル			
第 8 回	〃	関係モデルの整合性制約			
第 9 回	関係の正規化	正規化の実際			
第 10 回	〃	完全関数従属、推移的関数従属			
第 11 回	関係演算	集合と関係演算			
第 12 回	SQL	SQLの基礎			
第 13 回	〃	SQLの実行			
第 14 回	〃	親言語方式によるSQLの実行			
第 15 回	まとめ				
授業時間外学習 (Supplementary Activities)					
<p>配布されたプリントよく読んで、その内容を説明できるようにすること。また、SQLをマスターしたい場合は、自分の実行環境を用意することが望ましい。</p>					

成績評価の方法と基準(Grading)	
評価方法 (割合)	評価基準
期末試験 (60%) レポート・課題提出 (40%)	秀：講義で扱ったデータベースの知識とその応用方法を理論的に説明でき、その知識を応用できる。 優：講義で扱ったデータベースの知識とその応用方法を論理的に説明できる。 良：データベースと正規化について概ね説明できる。 可：データベースについて概ね説明できる。 不可：大学生として最低限必要なデータベースに関する知識を有していない。
テキスト (Textbook)	【書名】 プリントを配布する 【著者】 【出版社】 【出版年】
参考書・資料等 (Supplementary Reading)	講義中に参考文献を紹介する
備考 (Other Information)	
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	電子メールによる。 kamitani-tatsuo@fukuchiyama.ac.jp